

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572109445		
法人名	ヴォルフアート株式会社		
事業所名	グループホーム ほおずき		
所在地	秋田県北秋田郡上小阿仁村小沢田字向川原 213番地 4		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成23年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の状態に合わせ、体操・運動・外散歩・童話の読み聞かせ・農園活動を継続的な毎日の活動とし、提供している。その他ご利用者様に楽しんで頂ける様なりんご狩り等の企画や御家族様参加型の敬老会を開催するなど、季節にあわせた行事の企画をおこなっている。
ご希望に応じて、親戚宅や他施設へ入所中のご家族への面会、馴染みの場所(釣堀)への送迎・付き添いを行わせて頂き、個々の望む暮らしに目を向けご支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム独自の理念を全スタッフで作成しており、過去数回ホームの理念を見直したが、作成過程そのものがスタッフの意識向上に貢献している。2ヶ月に一回開催している運営推進会議で、話し合われた内容が、具体的な運営改善につながっている。又、運営推進会議の議事録を全利用者家族へ毎回配布している。前回の外部評価で、地域貢献活動に対する期待が取り上げられたが、地域住民への認知症理解及びグループホームについての学習会へ講師を派遣していることが確認できた。地区消防団員や近隣住民も避難訓練に参加しており、近隣の、他のホームのスタッフとの交流の中で避難訓練状況を視察し、意見交換を行っている。ホームは村の中心地にあり、すぐそばに保育所、薬局、診療所、百貨店、役場、消防署が位置し、地域との関係が良好で安心できるホームである。

【サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)】 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関の目の付きやすい場所へ理念を設置し、「家族の様に…」という視点で代表者・管理者・職員が同じ方向性で利用者の方の生活を支援させて頂いている。	法人の理念を踏まえ、ホーム独自の理念を全スタッフで作成している。過去数回ホームの理念を見直したが、作成過程そのものがスタッフの意識向上につながっている。玄関の見やすい場所にホームの理念が掲げられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村の行事に積極的に参加し、地域の方達に声を掛けて頂きながら交流の喜びを感じている。	敬老会・フェスティバル・芸能まつり・生涯学習週間等、地域の行事に参加しており、住民から、移動介助等の手助けをいただく場面も多い。近隣の保育所との交流もあり、ほほえましい写真がホームに掲示されている。又、地域住民への認知症理解及びグループホームについての学習会へ講師として参加している。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	現在老人クラブ等へ出向いての認知症勉強会を検討中である。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの出来事、取り組みについて報告し、利用者の方や御家族様より御意見、アドバイスを頂きながらより良いサービスの提供につなげている	2ヶ月に一回開催しており、会議で話し合われた内容が、発電機の設置・避難訓練への住民参加等具体的な対策に直結しており、意見、アイデア、要望が数多く議論されている。議事録が全利用者家族へ毎回配布されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	つど情報交換させて頂きながら連携し、利用者様の生活の質の向上に努めている。	運営推進会議に住民福祉課の職員が毎回参加しており、ホームの現状を理解している。ホームのすぐそばに村役場があり、日頃より、密な連携が図られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを使用し、すべての職員が内容を正しく理解しており、日中は施錠していない。身体拘束をしないケアに取り組んでいる	19:00～7:00のみ玄関に施錠している。事故防止のために見守りの強化に取り組んでいる。職員研修として身体拘束を取り上げており、スタッフ間で周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉により介護者が利用者を見下す位置に立つ恐ろしさについて内部研修にて学ぶ機会を持ち虐待防止の基本も個々に確認出来る様、ファイルに閉じている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際成年後見制度を利用されていた方がおり、手続き等円滑に行えるよう各種機関との連絡調整を行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は充分なご説明のお時間を頂き、丁寧にご説明させて頂き不明な点があれば、詳しくお伝えさせて頂いている。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時にはスタッフ必ず声を掛けさせて頂き、ご意見をよく聴くよう努めている。必要な場合は村役場 包括支援センター等へご相談頂ける事契約時にご説明させて頂いている。	家族の面会時や介護計画作成時、ホームだよりや備えつけのアンケートシート 又、日常生活等、あらゆる機会をとおして、利用者や家族からの要望や意見を収集し、反映させる努力をしている。	事業所の規程に基づき、家族に対する預かり金使途報告が行われているが、確実に管理されていることを、いつでも表明できるように領収書(写)保管や家族確認書類について検討し、より確実にしていくことが期待される。
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議を開催し、職員が進行役となる事で活発な意見交換があり、話し合いの中での意見や提案をその日から活かす取り組みをしている。	本社から毎月スタッフが訪れ、意見交換が実施されている。又、運営推進会議で取り上げられた改善要望を、実践し、改善につながったことが確認できた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境 条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入しており、職員一人ひとりが向う目標や、課題を明確にし、互いに向上心を持って働けるような環境 条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を開催し、職員のスキルアップにつなげている。外部研修へも多く参加しており、更に伝達研修にて全職員へ周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町グループホームからの訪問あり、情報交換しながら、サービスの質の向上に繋がっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に不安に思っている事、分からない事等引き出しながら、一つひとつの事に対しゆっくりとお話を聴き、お気持ちを共有する事からはじめている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前後に十分に話し合う時間を確保し、不安な事や要望をお聴きして、今後のホームの対応や御本人の状態を面会時に、また、面会に来れない御家族様へは電話やお手紙でお知らせし、安心に繋げている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護させて頂くにあたり、「自分だったらどんな気持ちなんだろう...」という会話が自然とスタッフ間でなされており、ご利用者の目線で何事も進め、共に生活を楽しめるよう工夫している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを汲み取りながら、スタッフと家族が相談しあってケアの方向性を見出し、その都度情報交換しながらケアに参加頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	御本人の意思を尊重しながら、ご自宅や親戚の方宅を訪ねたり、ご自宅周辺までドライブに行ったりと個々の要望に合わせてご支援させて頂いている。村の行事へも積極的に参加し、昔の仲間に出会う機会づくりをしている。	ホームから一歩出ると、利用者にとって顔なじみの住民も多く、外出先で声を掛け合ったり、お土産をいただくこともある。できる限り馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、利用者間のコミュニケーションがスムーズに図れるよう配慮している。レクリエーション実施時お話を多く取り入れ、仲間意識を持って頂けるよう関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大半が入院されての契約終了であり、次の行き先が決まるまで居宅ケアマネと連絡を取り合いながら経過フォロー・行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	6ヶ月に1度プランの見直しを行い、定期的に思いや意向の把握に努めている。困難な方は、今までの生活や今の生活ぶりから検討させて頂いている。	農家を行っていた利用者が多いことから、希望により、スタッフが提供した苗で、多くの野菜を収穫している。利用者が職員へアドバイスしながら一緒に作業し、喜びを味わうなど、知識や経験を発揮する場になっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の方より、基本調査として生活歴等をつかがい、面会の際もどんな生活をされていたのか、生活ぶりや家族の中でのエピソードを聞かせて頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の活動や、ご本人の状態が分かる記録を心掛け、一人ひとりの生活リズムやパターンの把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いを計画に反映出来る様に作成時取り組み、実現可能な範囲での計画書となるよう、ご本人ご家族と話し合いを行っている。	スタッフ全員が参加し、利用者や家族の意向を取り入れながら、介護計画を作成している。必要に応じた随時の見直しも実施されている。見直しの意義については、管理者がスタッフに周知している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パートナーの気付き ケアプランの実施状況を記入、チェックする欄を設け、過去1か月の記録を事務所の手の届き易い場所に置き、情報をスタッフ間で共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店や、馴染みの人間関係の中で、周囲の見守りも得ながら、散歩や買物を楽しんで頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、協力病院をかかりつけ医としているが、ご希望のある方は隣の病院への受診対応をさせて頂いている。また、必要があれば相談に乗って頂いている。	協力医療機関である診療所が近くにある他、ホームの隣には薬局があり、利用者個々の状況を把握した密な関係が築かれている。初診や転院の際は、状況を把握してもらう為、家族にも同意を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置時、介護員は様々な場面で気付いた事等その都度看護師へ報告し、適切な受診と日々の看護を適切に行う事ができた。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は面会時や電話にて、その都度状態の把握に努め、情報交換、ケースカンファレンスにて医療機関とホームとが同じ方向性を持って、ご支援出来るよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看護師不在の為、看取りケアは行っていないが、話し合う機会を持ち、お気持ちの変化が無いかご家族の方へ確認を行い、ホームで出来る可能範囲のケアについてお伝えしている。	「重度化および看取りの指針」が作成され、職員も周知している。家族には、重要事項説明の中で伝えている。今まで看取りに至った例はないが、利用者の急変時には家族との慎重な話し合いがもたれている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフが救急講習を終了している。今後も受講継続を行っていく		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施し、地域の方にも参加頂きながら避難方法を全スタッフが身に付けている。	消防署が近隣にあり、機会あるごとに指導を受けている。地区消防団員や近隣住民も避難訓練に参加している。又、近隣する他のホームのスタッフとの交流の中で、互いに避難訓練状況を視察しては、意見交換を行っている。運営推進会議で要望があったスプリンクラーを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つける事のない様、言葉掛けに配慮を行い、プライバシーが保たれる様ケアさせて頂いている。	月に一度のスタッフミーティングをとおして、管理者がプライバシーを損ねない対応や個人情報取扱について、周知している。トイし誘導時に個々に応じた声かけに心がけていることが確認できた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや対応が誘導的にならぬよう配慮し、ゆっくりと利用者のお話しに耳を傾け、思いを引き出している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩希望や、リハビリの希望があり、その都度対応させて頂いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	馴染みの美容院や理容店に通ったり、服装もご本人と一緒に選んだりするなどしてご支援させて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の仕方を利用者の方に聞いたり、畑から収穫した旬の野菜を使用するなどして、食事を楽しんで頂いたり、体調に合わせ、下準備をお手伝いして頂いたりしている。	東北地方の同法人内3事業所で、栄養士が作成した献立を共有しているが、旬の時期に合わせてホーム独自の工夫を加えている。 だまこ料理を利用者が手伝ったり、一緒に食材の購入に出かけたり等、食事を楽しめるよう配慮している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を1日の記録に記載し、一日のトータル、一週間のトータルとして、状況を把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせ、毎食後口腔ケアを促し、一部介助にて口腔衛生を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて排泄間隔、パターンの把握に努め、随時トイレ誘導を行っている。排泄介入拒否のある方へは、様子を見ながら入浴回数を増やすなどして、さりげなく介入させて頂いている。	トイレ誘導の必要な方が殆どであり、リハビリパンツを利用し、都度の声かけや誘導により、できる限り自立に向けた排泄ができるよう支援している。生活のチェック票の項目に排泄の詳細な記録が確認できた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を多く取り入れ、乳製品も1日1回ご家族の了解を得て提供させて頂いている。また、毎日の体操、足踏み運動などを継続し提供させて頂いている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には1日置きに入浴頂ける様ご支援させて頂き、希望がある方は毎日入浴されている。時間帯は午後と決めさせて頂いている。	一般家庭用のユニットバスが設置されており、スタッフと利用者は1対1で入浴している。必要に応じてスタッフ同士が助け合いながら、その日の利用者個々の希望や状況に配慮できるよう努力している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、就寝前のお手伝いをさせて頂いたり、休まれる前にゆっくりと関わる時間を持つようになっている。日中の休息も個々の体調等に合わせながら取って頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護スタッフ全員が個々の使用している内服薬の目的、副作用、用法を理解しており、Dr. 薬剤師よりその都度、詳しく説明頂いている。内服変更時等、統一して様子観察を行い、変化のある際はDrへ報告を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農家をされてきた方達が多く入居されており、本年度より畑を作り農園作業に力を入れている。食事メニューや誕生日会にて、嗜好品の提供を行っている。様々な行事を企画し、楽しみのある生活の提供やレク活動を通して、気分転換頂ける様関わっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ご本人の希望を第一に、理美容店への送迎、付き添いを行い、出来る限りのご支援をさせて頂いている。リンゴ園へ出掛けたり、地域の方にご協力頂いて村の行事にも積極的に参加させて頂いている。	「これから さんが買い物に行きます。」 「 さん買い物終わりホームへ向かいました。」と、近くの商店とホームでやり取りをするなど、利用者が商店を単独利用できるよう、地域の協力を得ながら支援している。花見、ダム、紅葉、ドライブイン等へのドライブの他、できる限り個別の外出もできるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に合わせ、ご家族の方の理解を得ながらお金の所持、使用の支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に事務所に入り電話を掛けられる様、配慮している。手紙を書いたりという作業もアドバイスさせて頂きながら、行わせて頂いた。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔でシンプルな物品の配置となっており、季節を感じ取って頂けるよう、掲示物などに季節感のある物を取り入れさせて頂いている。	不快な音、臭い、光は一切感じられない。各居室にエアコンが設置されているが、部屋により温度差があることや、利用者の希望温度に相違があることから、居室ごとに温度管理をしている。湿度をチェックし、必要に応じて加湿器も利用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	つい立を利用し、空間を区切ることでプライベートな空間をつくるなどして対応させて頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用開始時に御家族様へ使い慣れた物品をお持ち頂き、居室へ取り入れて頂けるようお話しさせて頂いている。慰霊や信仰している宗教の神棚を設置されている方もいる。	利用者や家族の希望するものを持ち込むことを基本としている。福祉用具のベッドを利用している方もいる。部屋の配置換えを利用者の好みで実施している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、危険のない範囲で物品配置を行ったり、スタッフが事前に準備をする事でスムーズに動作出来る様工夫している。		